多賀城民報

「図書館をツタヤに任してよいのか」

―― 6/30「新図書館を考える市民のつどい」に市内外から90人

「かつて武雄の市長は『五十年後に楽しみを得たければ木を植えよ。百年後に楽しみを得たければ人を育てよ』と図書館を建てた。ところが今、書店のための図書館になってしまった」（井上一夫氏）

「多賀城の図書館はどうなるのか？」全国的に注目をあびる中、6月30日午後、市民活動サポートセンターにおいて「図書館をツタヤに任せてよいのか―新図書館を考える市民のつどい」が開催され、市内外から90名が参加しました。

「つどい」は佐藤正弘氏（「多賀城図書館友の会」事務局長）の司会ですすめられ、佐俣主紀氏（「多賀城懇話会」代表世話人）の主催者あいさつの後、常世田良（とこよだりょう）立命館大学教授の講演が行われました。

常世田氏は「いま社会は自己責任社会になりつつある。そこを生き抜くには確かな情報が必要だ。しかし、書店でその情報は得られるか？。ネットで得られるか？。いずれも一面的にならざるを得ない。図書館は書籍の専門家である司書がバランスを考えつつ系統的に資料を収集する。いま図書館の資料を使って就職する、起業する、そういう取り組みも始まっている。いまこそ図書館が求められている」と述べました。

藤原益栄市議は、6月18日の一般質問の状況を中心に、いま多賀城で何が起こっているかを報告しました。

武雄市図書館の現状を報告したのは「武雄市図書館・歴史資料館を学習する市民の会」代表世話人の井上一夫氏。井上氏は「かつて武雄の市長は『五十年後に楽しみを得たければ木を植えよ。百年後に楽しみを得たければ人を育てよ』と語り『武雄文化施設群構想』を発表し誇れる図書館を造った。しかし今や書店のための図書館になってしまった」と述べ、図や写真を駆使し以下の点を指摘しました。

①旧図書館の玄関付近の最も良い場所がツタヤの雑誌コーナーとなり、雑誌が平積みされている。②その分の書籍を収容するために書庫をつぶし、作業スペースも5分の1にし開架スペースとした。③なおも足りないため、壁にバルコニーを造り3・9（メートル）の超高架書架を設置した。図書館の資料がツタヤの景観づくりに使用された面もある。④読み聞かせの部屋はつぶしコーヒーショップとなり、4カ所にあったトイレは一カ所となった。⑤武雄は蘭学のまちとして知られており、常設の歴史資料展示館・蘭学館があった。ところが蘭学研究を推奨した鍋島茂義公の没後150年の昨年、閉鎖することにし現在ツタヤのレンタルショップになっている。資料は、現在九州国立歴史博物館で特別展示されているように、国宝級といってよい。⑥多くの方が視察に来るが書店を見て図書館は見ていないように思う。

東風城月

武雄市図書館の二階部分の高さ3・9（メートル）の超高架書架をネットで見たとき、二口渓谷の奥の盤司岩（ばんじいわ）を思い出した。それほど同図書館の景観は見るものを圧倒する▼だが、利用者からみればかなり不便である。まず巨大な脚立がなければ本に手が届かない。それ以前に上の方は何の本か読めない可能性が高い。現にネット上ではそういう声が上がっている▼私が不思議だったのはなぜそのような超高架書架にしたのかということ。井上さんのお話でようやく理解できた。一つは、一階の相当部分がツタヤ書店の雑誌コーナーとして使われることになったためその分の置き場が必要になったこと▼もう一つは「ツタヤ書店の景観づくりのために図書館の本が利用された」という氏の指摘。なるほど、それなら何の本か分かろうが分かるまいが、手に取れようが取れまいが、安全であろうがあるまいが大した問題ではない。それが巨大書架の背景だったのだ▼だから氏は「武雄の図書館は書店のための館になってしまった」と断言する。常世田氏は言う。『図書館には三年目の壁がある。新しい館には人が来る。努力しない館に人は来なくなる』。武雄市図書館はもっと丁寧に見る必要がありそうだ。

題字は池田和京さんにご揮毫いただきました。

日本共産党
多賀城市議団
多賀城市留ケ谷一丁目11番23号
代表（364）3222
FAX（309）3910

◇弁護士による
法律相談
◇申込
電話で予約して下さい。
◇電話
364-3222
◇相談日
7月17日（水）
7月26日（金）
◇時間
午後1:30～
◇場所
旧阿部福商店となり塩釜県民の会事務所

◇議員による
暮しの相談
電話
藤原益栄議員
368-6623
070-6497-6623
佐藤恵子議員
367-0182
090-2027-9884
柳原きよし議員
368-1883
090-2605-4984
戸津川はるみ議員
090-7528-2075